

倫理，公共（令和7年度）本試験 解答・解説

【問題構成】

大問	科目	テーマ及び分野
1	公共	男女共同参画社会の諸課題
2	公共	公共空間の持続的形成
3	倫理	芸術に関する思想（源流思想，西洋近現代思想）
4	倫理	日本の思想
5	倫理	認知バイアス（心理学）
6	倫理	戦争と平和についての対話

※平均点 59.74

【傾向分析】

「公共，倫理」の新課程試作問題は大問6，解答数33であったが，この形式が新課程共通テストとして踏襲されている。

第1問・第2問は，「公共」からの出題。「公共，政治・経済」及び「地理総合／歴史総合／公共」の共通問題となっており，探究活動形式の設問となっている。共通問題であるために，専門的な知識の内容を問うのではなく，一般的な知識を問うものとなっている。また，表・統計問題，読み取り問題が多く出題されている。

第3問からは「倫理」からの出題。源流思想と西洋近現代思想の融合問題となっており，今までと異なっている。

第4問は，日本思想としての単独出題である。会話が多用されており，空欄の前後をしっかりと読み取り，会話の人物の主張内容を理解しておかなければならない設問が見られる。

第5問は，心理学からの出題である。従来までの青年期の内容ではなく，新課程から導入された認知心理学の出題で，新しい内容となっている。

第6問は，戦争と平和をテーマとして，現代思想を中心に出題され，源流思想や西洋近代思想の問題も含まれている。第3問の問題と合わせて学習することが必要である。

第1問

男女平等，クオータ制，実質的平等と形式的平等などや統計問題及び法律についての知識が問われている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
★第1問	1	1	②	3
	2	2	④	3
	3	3	②	3
	4	4	③	3

★「地／歴／公」「公，政経」共通問題

問1 ー正解②

ア 憲法第14条1項には「すべて国民は，**法の下に平等**であつて，人種，信条，性別，社会的身分又は門地により，政治的，経済的又は社会的関係において，差別されない」と規定されている。両性の本質的平等は第24条2項に「配偶者の選択，財産権，相続，住居の選定，離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては，法律は，個人の尊厳と**両性の本質的平等**に立脚して，制定されなければならない」と規定されている。

イ **女性差別撤廃条約**を批准したのは1985年で，同年に批准のために**男女雇用機会均等法**が制定された。男女共同参画社会基本法は1999年に制定され，第2条一号に「男女共同参画社会の形成 男女が，社会の対等な構成員として，自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され，もって男女が均等に政治的，経済的，社会的及び文化的利益を享受することができ，かつ，共に責任を担うべき社会を形成することをいう」と規定されている。

問2 ー正解④

「60代において男女の差が最も大きい」のではなく，最も小さい。60代の男女間の差は6.4であるのに対して，20代9.4，30代10.3，40代7.2，50代7.3となっている。男女ともに，若い世代に男性優先の考えが強いことが読み取れる。

- ① 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」への肯定的な回答割合は，20代14.5，30代17.7，40代23.3，50代24.7，60代28.0と，女性は年代が上がるほど割合が高くなっている。
- ② 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」への肯定的な回答割合は，20代男性が26.2，20代女性が14.5で，男女差が11.7と10.0ポイント以上高い。
- ③ 「同程度の実力なら，まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」への肯定的な回答割合は，男性20代が20.4，男性30代が20.7と20.0を超え，それ以外の性別・年代では20.0を下回っている。

問3 3 -正解 ②

- Y 国の 2000 年と 2010 年を比較すると、8.0 ポイントの差となっている。
- ① X 国では「各政党が候補者名簿の男女比率を均等に努力」を始めた 1990 年以前から上昇している。
- ③ Z 国が 1960 年以降、常に日本より高いが、Y 国との比較では 1960 年、1970 年、2000 年が Y 国より低くなっている。
- ④ 日本はいずれの年でも Z 国より上回ってはいない。

問4 4 -正解 ③

- ア すべての人を法律上や制度で等しく取り扱うとあるので、**形式的平等**である。
- イ クオータ制などで特定の人を制度や法律で優遇するのは、**実質的平等**である。
- ウ アイヌ民族を初めて先住民族と明記した法律は、**アイヌ施策推進法（アイヌ民族支援法）**である。**アイヌ文化振興法**は、1997 年に制定され、アイヌ文化やアイヌ語などの文化を継承・育成することを目的とした法律であるが、アイヌ民族を先住民族とする規定はなかった。

第2問

公共空間の持続的な形成をテーマに現代思想や統計問題などを中心とした設問であり、同時に文章の読み取り問題でもある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
★第2問	1	5	⑤	3
	2	6	⑥	4
	3	7	⑤	3
	4	8	②	3

★「地 / 歴 / 公」「公、政経」共通問題

問1 5 -正解 ⑤

- ア 空欄の前に著書『**コミュニケーション的行為の理論**』とあるので、**ハーバーマス**である。著書『**人間の条件**』は**アーレント**である。
- イ ハーバーマスは、コミュニケーションや討議を通じて**合意を形成**するためには、**対話的理性**が必要だと説いた。**他者危害原理**を説いたのは、功利主義者の**J.S. ミル**である。
- ウ アーレントは、『人間の条件』で「労働」「仕事」「活動」を取り上げ、「**活動**」は言葉を介した相互行為ととらえた。

問2 6 -正解 ⑥

- アの下線部で、「40～49 歳」の「自由時間の過ごし方」として「インターネットやソーシャルメディアの利用」の割合が半数を超えるようになったとあるが、45.6% なので、半数にはなっていない。
- イ・ウは、それぞれ表 1・2 に合致している。

問3 7 -正解 ⑥

- 設問に「帰納的に推論されているもの」とあるが、**帰納的**とは、**個々の事実から一般的な原理や法則を導く方法**を言う。
- I お互いが、「穏やかな態度で相手の発言を最後まで聞き、よく考えてから発言するように取り決めたところ、対話が活発にできるようになった」とあるので、それぞれの内容が吟味されていることがわかる。
- II 「参加者がお互いに、相手には自由に発言する権利がある」としており、「相手の話を尊重して最後までしっかりと聞く」とするのは、**帰納的**になっていない。確実的な原理を具体的事象に当てはめて推論を重ねる演繹的な方法となっている。
- III 参加した人が質問をし、「繰り返し問うてきた問題に新たな光が当てられて」問いが深まったとあるので、多くの事実からいろんなことを学んだとする点で、**帰納的**になっている。
- したがって、I と III の ⑥ が正しい。

問4 8 -正解 ②

- ① 「対面の場に集まることなく」ICT で対話や議論に参加できるとあるので、対面から非対面に変更されオンライン会議に出席したとあるアが該当する。
- ② 対面の場に参加できなかった人が、ICT で参加できるようになったとあるので、外出できなかった人がインターネットで参加できたとするウが該当する。
- ③ その場にいる人たちが質問したり、相手の反応を確認するとあるので、対面の状態にあることがわかる。集まり、指導を受け、講評を受けたとある料理教室の対面の状態のイが該当する。

第3問

- 第3問以下は倫理の内容である。
- 芸術に関する思想について、**場面 1～場面 3**から源流思想と西洋の近現代思想から出題されている。**問 8**の**ミシェル・アンリ**は、教科書には登場しないが、資料はそれ程難しい内容ではないので、丁寧に読むとよ

い。彼は現代フランスの哲学者で、フッサールやハイデガーを批判し、意識の根源は外的な世界ではなく、自己の内面的な体験にあるとして「生の現象学」を提唱した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	1	9	④	3
	2	10	②	3
	3	11	③	3
	4	12	①	3
	5	13	②	3
	6	14	④	3
	7	15	③	3
	8	16	②	3
	9	17	⑥	4

問1 9 ー正解④

プラトンの説く**エロース**は、完全なもの、つまり**イデア**を望む憧れである。

- ① **ヘシオドス**の『**神統記**』は、神々に翻弄される人間の姿を描いたものではなく、**神々の系譜**を整理した叙事詩である。
- ② **デモクリトス**は、「無数の原子を想定」したのではなく、**万物の根源を原子**とした。根源を秩序としての**数的比例**と考えたのは**ピュタゴラス**である。
- ③ **ソクラテス**は、無知の自覚を説くが、相対主義的な考え方を浸透させようとして**弁論術**を説いたのではない。それは**ソフィスト**である。

問2 10 ー正解②

イスラームでは、**偶像崇拝を禁じ**、モスクではミフラーブが設置され、幾何学模様がなされている。

- ① **ユダヤ教**は、モーセの十戒にもあるように、**偶像崇拝を禁止**している。
- ③ **ブッダの涅槃図**は、「よりよい世界に輪廻する様」を描いたものではなく、煩惱が消え、悟りの完成を表したものである。
- ④ **イエスの磔刑図**は、死とキリストとしての復活、救済と贖いの象徴として描かれている。

問3 11 ー正解③

授業資料では、3行目から4行目にかけて、「芸術家たちは、この神の美を美しさの……美しいものを作り出す」と述べており、7行目からの「美の源泉である……遠ざけるものであるからである」に注意するとよい。**アウグスティヌス**は、神秘主義的な**新プラトン主義**の**プロティノス**の影響を受けている。

- ①② **アウグスティヌス**は信仰、希望、愛の必要性を説いたが、ギリシアの四元徳を否定したのではな

く、ギリシアの四元徳の上にキリスト教の三元徳を位置づけた。

- ④ 前半部は正しいが、後半部の「芸術家は美しいものを作ることを通じて、神に対する愛を自然に獲得する」とは述べていない。作られた美に対する愛を「畏」とも表現して、美の源泉である神そのものを愛することを求めている。

問4 12 ー正解①

ア 「人の本性は善」とあるので、性善説を唱えた**孟子**である。

イ 「美などの価値は相対的」「何ものにもとらわれない自由の境地」とあるので、「万物斉同」「逍遙遊」「心齋坐忘」を説いた**莊子**である。

ウ 「仁を表現するものこそが礼」で、「礼に立ち返る」とあるので、「克己復礼」を説いた**孔子**である。

エ 「家族主義的な考え方を批判」し、人の分け隔てをしない道徳を説いたとあるので、「兼愛」を唱えた**墨子**である。

問5 13 ー正解②

ア 正しい。大乘仏教の思想家**竜樹**（**ナーガールジュナ**）は、ゴータマの縁起や諸法無我などの思想を展開し、すべてのものは固定的な実体を持たないとする「**空**」や「**無自性**」の思想を説いた。

イ 誤り。菩薩は悟りを求める求道者のことで、『維摩経』は、出家した菩薩の生活を説いたものではない。在家仏教者が世俗の中でどのようにして真理を求めるかを記した大乘經典である。

ウ 正しい。竜樹の空の思想を受け継いで**唯識思想**を説いたのは、**無著**（**アサンガ**）と**世親**（**ヴァスバンダ**）である。

エ 誤り。『般若経』の**般若**とは、六波羅蜜の一つである悟りの知恵を説いたもので、空の思想を説いた。全ての衆生が仏陀となる可能性（一切衆生悉有仏性）が説かれているのは『般若経』ではなく、『**大般涅槃経**』である。

問6 14 ー正解④

a 『**天文対話**』は、**ガリレイ**の著書である。コペルニクスは『天文の回転について』を著した。

b 自然科学が解明しようとしたのは、因果法則である。**四原因**は、目的論的自然観を説いた**アリストテレス**の思想で、物事を生み出す4つの原因のことを言い、知恵によって知ることができるとした。

c ルネサンス期の精神は、**ヒューマニズム**で**人文主義**といわれるものである。**プロテスタンティズム**とは、宗教改革後のローマ・カトリックを批判する**新**

教の思想・神学である。

問7 15 ー正解③

資料の2行目から3行目にかけて注目すると、複製技術がどのようなものであるかを述べている。「複製技術は、一般的に言えば、複製されたものを伝統の領域から引き離してしまう」「同一の作品を大量に出現させる」、さらに、7行目に「現代の大衆運動とも密接に結びついている」とあるので、③が適当である。

- ① 「複製する時代において失われていくものは、作品のもつアウラである」と述べているので、「一回限りの作品と同等のアウラを作品に与える」が誤り。
- ② 複製技術は、同一の作品を大量に出現させるのであり、「異なるアウラをもたらす」ものでもない。
- ④ 複製技術は、唯一無二性という価値を無力化するのであって、「無力化せず」というのが誤り。

ベンヤミンは、ドイツの哲学者、批評家で、フランクフルト学派第一世代の一人である。複製技術の進歩により、世界に一つしかないものに特有の神秘的な力であるアウラが喪失されたと批判した。その上で、写真や映画などの複製技術の読み解きや意味づけなどを行う批評に積極的な可能性を求めた。

問8 16 ー正解②

資料1と資料2のそれぞれの要点だが、資料1では、美的体験それ自身が一つの倫理、実践、生の実現であると言い、資料2では、鑑賞者は芸術作品を介して、制作者と「生きることの強化」ともいうべき同じ感情を感受することが述べられる。このことから②が適当である。

- ① 「政治的態度や価値観を作者と共有して生きることが必要」とはどこにも述べられていない。
- ③ 資料1では、芸術の真理が「鑑賞者を本来的実存に目覚めさせること」とは述べられていない。
- ④ 資料1・資料2から鑑賞者の感動が「美的というより倫理的なもの」とは述べられていない。

問9 17 ー正解⑥

- a 場面2でCさんは、老子は「天下の人々が皆、これこそ美だと心得ているものは、実は醜悪なのだ」と述べ、孔子とは異なる考え方を紹介しているので、イの「逆説」が適当とわかる。
- b 場面3でAさんが、現代アートに「私は、必ずしも普通の意味で『美しい』とは言えない気がした」と述べ、Cさんは「直接、アート作品に接してみると、私は心が動かされたよ」と述べているので、エの「美しさがなくても」が適当とわかる。

問9は、場面1～3までのリード文を、再び読み直

さなければならないので、時間がかかり、高度の読解力を必要とする難易度の高い新形式の問題である。

キ マルクスは上部構造と下部構造を設定し、経済構造の土台にあたる下部構造の変動が上部構造の精神文化（哲学、道徳、芸術など）・社会制度を変動させると考えたので、正しい。

オ ウェーバーは、脱呪術化とそれに伴った合理化が近代の文明を成立させたとして主張した。「合理化が芸術には及ばなかったのは、芸術が呪術性を脱することができないからだ」という主張ではないので、誤り。

カ ニーチェは、理性では抑えきれない衝動（力への意志）を抑圧する怨恨感情（ルサンチマン）が、キリスト教の奴隷道徳による弱者の連帯を生み出したとしたので、誤り。

第4問

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	1	18	①	3
	2	19	②	3
	3	20	③	3
	4	21	④	3
	5	22	⑤	3

問1 18 ー正解①

蕃神とは「あだしくにのかみ」とか「となりのくにのかみ（とつくにのかみ）」の意。異国からやってきた「仏」は神と捉えられ、日本の神々と同等の神と位置づけられた。

② 本地垂迹説の登場以降、仏と神の関係が固定化したのではなく、鎌倉時代末期の蒙古襲来を契機に反本地垂迹説である神国思想が生まれた。

③ 山崎闇斎の垂加神道は、神道と朱子学を結びつけた。

④ 平田篤胤の復古神道は、死後の靈魂の存在を否定したのではない。人の魂は、黄泉国に行くのではなく、現実世界とも関連性を持つ幽冥界、霊世に行き、人々を見守るという独自の死生観・靈魂観を説いた。

問2 19 ー正解②

発表の内容は、親鸞のことを述べている。そこで「煩惱具足の凡夫」とは、末法の世にあつて凡夫であることを自覚し、仏の救いにただひたすら身をまかせ、絶対他力を説いた親鸞の思想から、②が適当とわかる。

- ① 「自力の行として念仏がある」とするのが、誤り。
 ③ 「他者に救いの手を差し伸べることで自分も往生できる」とするのが、誤り。
 ④ 「悪人」以外の衆生は全て救うと述べているのが、誤り。

問3 20 ー正解 ③

富永仲基の『出定後語』で述べた考えで、これを**加上説**という。

- ① 古学派である**伊藤仁斎**の思想は**古義学**である。**古文辞学**、先王の道を説いたのは**荻生徂徠**である。
 ② 前半部は本居宣長の内容だが、後半部の「万人直耕」の「自然世」を説いたのは、**安藤昌益**である。
 ④ **佐久間象山**は「鎖国攘夷の立場」ではなく、**開国論**を主張したので、攘夷派によって暗殺された。

問4 21 ー正解 ④

資料の4行目から7行目までの「私が立てる一定の主義とは……それは天地の真理である」に注意するとよい。二教（儒教と西洋哲学）の精神を採ってその外形を捨て、一致するところを採って一致しないところを捨てるとしているのです、④が適当である。

- ① 「まず、天地の真理を明らかに」するとは述べていない。天地の真理は二教の粗雑な部分を捨てたのちに得られるとしている。
 ②③ 「西洋哲学の精髓を主とし」「儒教の精髓を主とし」とするのが、誤り。二教の精髓を採って、それぞれの粗雑な部分を捨てると述べている。

問5 22 ー正解 ⑤

- a 空欄の後に、「日本ではいろいろな思想が『**雑居**』している」とあるので、**丸山真男**である。丸山真男は、日本の思想はそれぞれの思想が相互の関連もなく雑居しているタコツボ型の思想であると批判した。**加藤周一**は、雑居している思想のどれかを純粋化するのではなく、相互に関連させ、**雑種**のようなたくましい文化（雑種文化）を育てることで、日本文化が進展することに期待した。
 b 空欄の前に「現代日本の開化は皮相上滑りの開化である」とあるので、**夏目漱石**である。彼は、日本の開化を**外発の開化**と呼んだ。三宅雪嶺は国粹保存主義を説いた。
 c 空欄の前の、私が注目した言葉に「武士道の台木に基督教を接いだもの」とあるので、**内村鑑三**である。**新渡戸稲造**は日本人の精神を紹介する『**武士道**』を英文で著した。

第5問

新課程で導入された「人間の心の活動のあり方」に関する心理学の問題である。新しい分野であり、従来の青年期をめぐる出題ではないので、しっかりした学習が必要である。特に、「認知のしくみ」から記憶のしくみに関する設問に注意する。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第5問	1	23	③	3
	2	24	②	3
	3	25	④	3
	4	26	③	3
	5	27	①又は②	4
		28	①の場合は②、 ②の場合は⑤	

問1 23 ー正解 ③

記憶について、生徒Gの発言に「**符号化（記銘）**」「**貯蔵（保持）**」「**検索（想起）**」の三つの段階があることが述べられており、資料では記憶としての保持時間を考えさせている。

記憶は、半永久的な記憶である**長期記憶**と一時的な作動記憶としての**短期記憶**に区分できる。資料の実験ではそれぞれA群とB群の参加者の記憶を思い出してもらおうというものである。イの場合、入力された感覚としての形を意味づけることになっている。このことから、目からの情報を得ているので、符号化（記銘）と判断することができる。こうして記憶が長くとどまったと考えられることから、アは長期記憶といえる。

問2 24 ー正解 ②

場面2の会話文で、生徒Fの最後の発言で思考や認知の偏りを「**認知バイアス**」と述べているのに注意してみる。人は自分では理性的・論理的に判断を下しているつもりであっても、論理的ではなく、個人的な思い込みとなっている場合がある。

下線部①は、報道と実際のデータに違いがあるとしているので、アが適当と判断できる。イの事物や事象を表す特徴に基づいて判断するバイアスではない。

下線部②は、乗り気でなく遅刻したと思ったら、実際は違っていたとあるので、「その人自身に原因がある」と考えるバイアス」のエが適当と判断できる。

認知バイアスは、様々なものがあるので、事象や事実の例などをもとに考えてみる必要がある。

問3 25 ー正解 ④

クリティカル・シンキング（批判的思考）の内容を

思想家と結びつける設問である。クリティカル・シンキングについては、先生 R の 3 回目の発言に、「批判」は「よく検討する」意味で、批判的思考は「自他の主張の内容を論理的・客観的に検討する」とある点に注意する。

デュエイの知性は問題解決のための道具として用いられるので、「簡略化された直感的な解決手順」を否定していない。したがって、「ヒューリスティックに頼らない態度が重要である」とするのが、誤り。④が適当でない。

問 4 26 ー正解 ③

この設問も**認知バイアス**を問うている。説明文の内容をしっかりと押さえていくとよい。説明文では、二重盲検法として新薬とプラセボの二つの投与について患者も担当医師も知らないとする方法である。そこで、二つの群から新薬の効果を評価するとあるので、新薬を期待し、新薬の効果が出ないにもかかわらず、効果の期待があるとする ③ が適当とわかる。担当医師が、患者にどちらの薬剤を投与されたかを知っていれば、薬剤の効果を期待するバイアスが働くため、効果が出ていないにもかかわらず出ていると思う可能性が生じる。

① 新薬の効果の説明がされたために、新薬投与群であろうがプラセボ投与群であろうが、効果が出ているように患者が感じるバイアスなので、下線部の「担当医師も知らない」という二重盲検法のねらいとは一致しない。

② ①と同様に、新薬の副作用の説明がされたために、プラセボ投与群であるにもかかわらず、副反応が生じているように患者が感じるバイアスなので、誤りと判断できる。

④ プラセボ投与群であるにもかかわらず、新薬の副反応を心配するため、患者に副反応が生じているように担当医師が思うというバイアスは、新薬の効果を期待する説明文の内容と一致しない。

問 5 27 ・ 28 ー正解 ① : ②, 正解 ② : ⑤

① : 「国や地方自治体が発信する公的な情報の利用を容易にする」ことによって、個々人の間違った判断を抑え、修正することに結びつく。「認知バイアスの影響をできるだけ抑えた判断」を促す環境の整備として、②が適当である。

② : 「人が危険と感じる警戒色や警告音を提示することによって、「認知バイアスが判断に影響しても」その影響をできるだけ軽減できる環境の整備として、⑤が適当である。

第6問

戦争と平和について、様々な角度から民主社会における現代思想を中心に考えている。問 5 の **ジーン・シヤープ** は、アメリカの政治学者。『独裁体制から民主主義へ』で、非暴力的手段で独裁体制を打倒し、民主主義を実現するための実践的な方法を提示している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第6問	1	29	①	3
	2	30	③	3
	3	31	⑦	3
	4	32	③	3
	5	33	①	4

問 1 29 ー正解 ①

ロシアの作家である**トルストイ**の考え方は、**人道主義的非戦論**といわれる。

② フランスの作家**ロマン・ロラン**は、**絶対的平和主義**を主張した。『永遠平和のために』を著したのはカントである。

③ **ガンディーの非暴力**は**アヒンサー**といわれる。アタラクシアはヘレニズム時代のエピクロス派の主張である。

④ **キング牧師**は、人種差別に抗議したアメリカの活動家である。「生命への畏敬」は、アフリカで医療活動をしたシュヴァイツァーである。

問 2 30 ー正解 ③

空欄の後の生徒 J の発言に「フーコーによる近代への批判」とあるので、フーコーの思想に注目するとよい。**フーコー**は、近代は理性を絶対化し、それに立脚する近代の社会は抑圧の構造を持つとし、人間の思考を無意識のうちに支配する**規律の権力**(**規格化する権力**)の構造が潜むと説いた。

問 3 31 ー正解 ⑦

a 国連の資料は、今までの国家の軍事力を中心とする安全保障から非軍事的な**人間の安全保障**を目指した内容になっているし、生徒 J の 2 番目の発言に注意するとよい。

b 生徒 J の発言の 2 番目・3 番目からすると、**コスモポリタニズム**、つまり**世界市民主義**のことである。リベラリズムとは自由主義のこと。

c 世界市民は平等であり同胞だとするストア派の思想である。

問 4 32 ー正解 ③

先生 R が整理した、人の扱われ方の三つの特徴の

すべてに該当するのは、③である。一つは人間が数量として捉えられている（必要な人員数を算出）、二つに組織的な目標（営業体制を維持する）のもとで管理されていた、三つにその人自身への配慮の欠如（本人の希望や健康を無視して、従業員を長時間にわたる業務に割り当てた）である。

①は「単なる数量」（合格件数を上げる、点数の低い生徒と面談）、②は「組織的な目標」（全国大会での実績をよくするため）、「その人自身への配慮の欠如」（見せしめとして全員の前でどなった）、④は「単なる数量」（体重を管理し、カロリーの高い食品を禁止）には該当するが、三つのすべてに該当する事例ではないので、誤り。

問5 33 —正解 ①

資料の第3段落に注意するとよい。非暴力的闘争は、抗議行動、ストライキ、不服従、ボイコット、離反、民衆パワーなどが挙げられている。さらに、第4

段落で「民主的な体制をしっかりと据え付けること」と説いている。したがって、①が適当である。

②「抵抗運動は停止し、独裁者と和解交渉」とは述べられていない。

③「政府から書面で公式な通達や通告が送られてきたので」とも述べられていない。

④「独裁者が手を打つ」前に、「なるべく早く個別的に抵抗運動」を始めるなどとも述べられていない。

ジーン・シャープは、独裁政権の権力は民衆の服従に依存していると指摘し、非暴力的な不服従を通じてその基盤を崩すことが可能であると説いている。具体的に、抗議や説得、非協力、介入など198の非暴力行動を提案し、これらを戦略的に組み合わせることで効果的な抵抗が可能としている。シャープの非暴力主義は、絶対平和主義でも宗教的理念理想でもない、「現代のマキャベリズム」とも呼ばれる冷徹でリアリスティックな政治思想を展開している。